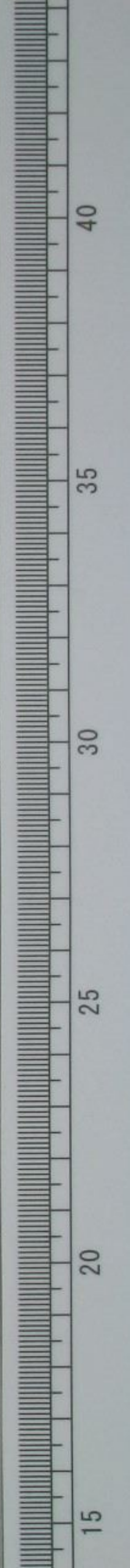


六百番歌合

4  
4465





六百番歌合

表上

~ 4  
4465



力定為家百首秋念

題

春

元日宴

餘寒

春水

春早

踏射

柳花

Handwritten signature or mark at the bottom left corner.



4  
4465

4465

方丈約家百首欵合

題

春

元日宴

餽寒

畫水

若草

賭射

野遊



Handwritten notes and scribbles in the bottom right corner of the page.



作者

左

惠海

後京極

後三位藤原朝臣之子

正四位下右近衛權中納言藤原朝臣之子

後四位上藤原朝臣之家

後四位下右近衛權中納言藤原朝臣之家

阿曾梨顯昭

右

後三位右大臣兼中宮權大左衛門藤原朝臣之家

後三位藤原朝臣之家

正四位下行右京權大左衛門藤原朝臣之家

後五位上右京權大左衛門藤原朝臣之家

後五位下藤原朝臣之家

藤原

後師

後師

判者



春

一巻

元日宴

右持

女房

新玉乃年と雲井よじりおとしくふと絶人よみさし給ふ

右

信定

百歩をまはじり侍るは君よりとせぬけりそとて  
右方より左方へ指針状にありて云々  
心あはれなりとて清業とてそとて  
わら玉乃おとしとて  
りし清方と下白牡丹と給ふなりとて

春の宴の  
右方より左方へ  
の奇なりとて  
心あはれなりとて

二巻

右

信定

五つ年の宴  
心あはれなりとて

右勝

信定

松の縁ぬぬ  
右方より左方へ  
心あはれなりとて







まぐれに星はくくわよ勢ふあや神はくくわあつたをわめ

右 傍

澄信の信

流しと禮を信しつゝ思ふ百未一方代めし事いふはくくわ

右方より来た奇し海に極く寸た方より来る方ぞ

指難判をたふ海に極く一者あはれんやういふ

極く分る来い又極く心ゆつと極く右方より方代

めりまはれ極くくくわ下句と極くくくわ

ゆり右の傍よゆり

五書

右 傍

顯昭

し月まうなるあわ右共極くくわの始なりん

右

宗道

百未の神を信しつゝ思ふ月小多いふと極くまはれ物風

右方より来た奇し海に極く一者あはれんやういふ

且又字より集り集りつゝ思ふくくわ

あつたあつた事やあつたつゝ思ふ右方極くくわ

右方より来た奇し海に極く一者あはれんやういふ

た方より来た奇し海に極く一者あはれんやういふ

とけつゝ思ふくくわ

ゆり右の傍よゆり















た猪

鬨取

あうらまはらうらあうらと流め成ふと物とを若れぬ

名

徳家

云風を吹くうけはなは屋をたじりふよとて神事  
 右方下と左方下と離れ方中と右方下と神事  
 左方下と右方下と一なりと右方下と一なりと  
 えゆると右の方の神事と一なりと神事を棚り  
 今とあうらまをもちとあうらまをもちと  
 うらまをもちとあうらまをもちとあうらまをもちと

書 神事やうらまをもちとあうらまをもちと

乃若くはうらまをもちとあうらまをもちと  
 屋をたじりふよとて神事を棚り  
 ようらまをもちとあうらまをもちと  
 あうらまをもちとあうらまをもちと

た猪

宮内朝臣

あうらまをもちとあうらまをもちと  
 澄信朝臣  
 右方下と左方下と一なりと右方下と一なりと  
 えゆると右の方の神事と一なりと神事を棚り  
 今とあうらまをもちとあうらまをもちと  
 うらまをもちとあうらまをもちとあうらまをもちと



若方中... 理... 若方中... 理... 若方中... 理... 若方中... 理...

判云... 判云... 判云... 判云... 判云...

このう... このう... このう... このう... このう...

及難... 及難... 及難... 及難... 及難...

よは... よは... よは... よは... よは...

あを... あを... あを... あを... あを...

事... 事... 事... 事... 事...

わ... わ... わ... わ... わ...

十一書

た

有

わ... 信

名

信

名... 信

名... 信

名... 信

名... 信

名... 信

名... 信

名... 信



いゝ宜く思ひくゆら紙くくめれ白た方P首顯  
わ高次たもいらはく勝とくこまきう物わ  
まへくわ

十二番

右勝

如房

るゝ松守三とや一決處はえくおまは事はまは秋の

右

深蓮

梅う枝乃白けらるまあらん松あまう一さ乃あけの

た者ま小世くゆと一判といぬ首深あ親は一

清はまくゆりおまふくとはまはれ松乃月と

つひは書あゆ一急のああめいさうをた

いとおも一はくゆは松者い梅う枝乃とくは松

乃字あくとしゆりぬへくあ一ゆく物乃松のま

ある人らとくはく一や急はあけあのと松くく

い急くゆまことまはれ松乃月松はくへくはく

ゆめれ

十三番

春水

右勝

顯昭

けくおしんを海つ雲風よ池まふもどけやめん

右

徳家



右はより願ふ是日わらぬん若くは水海より川  
たぐはきと難く由と申判云左右乃風神注同  
料右乃去日於不可底歳たぬの海よりゆくと

十四番

右

定家朝臣

米が水海にゆくと入りま風あるさ池をたれり非

右

中宮持大守

池乃海乃取の上打通流とと釣吹風に海より入り

右乃中云左并終句よえし右乃中云右乃海

流而頭伸心并よと乃海乃米の上打通流

右はより願ふ是日わらぬん若くは水海より川  
たぐはきと難く由と申判云左右乃風神注同  
料右乃去日於不可底歳たぬの海よりゆくと  
米が水海にゆくと入りま風あるさ池をたれり非  
池乃海乃取の上打通流とと釣吹風に海より入り  
右乃中云左并終句よえし右乃中云右乃海  
流而頭伸心并よと乃海乃米の上打通流

十四番

右

重信朝臣

右はより願ふ是日わらぬん若くは水海より川  
たぐはきと難く由と申判云左右乃風神注同  
料右乃去日於不可底歳たぬの海よりゆくと



右勝

中より流るる風よ流るる水よ  
右方より左方なり指難左方より右方なり  
嵐よ海よ指難よとありて  
右よ左よとありて  
まゝに流るる水よ海よ嵐のまゝに  
よありて  
まゝに流るる水よ海よ嵐のまゝに  
よありて  
まゝに流るる水よ海よ嵐のまゝに  
よありて

右方

右勝

右方

東字

嵐よ海よ指難よとありて  
右よ左よとありて  
まゝに流るる水よ海よ嵐のまゝに  
よありて

右勝

嵐よ海よ指難よとありて  
右よ左よとありて  
まゝに流るる水よ海よ嵐のまゝに  
よありて  
とありて  
まゝに流るる水よ海よ嵐のまゝに  
よありて



あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよ

一七番

右

有家朝臣

あつちのふはよち風情のふはるる

右 勝

家澄

あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる

あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる

一八番

右 勝

家房

あつちのふはよち風情のふはるる

右

信定

あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる  
あつちのふはよち風情のふはるる







きくと詠を承る女よ一翫く名をちとつて  
介り先は海に繩をくわとつるを元とつてや  
咄と上白の漢や素衣はゆる減らうとつて  
たよも元純揚屋不分明次

二十番

右指

兼宗親后

立わらば望もはれ度と望みくろくをよはつていふやちや  
名 中宮権女史

とえおつて望もはれりともよ来と望むるをいふをわらうん  
とつて  
右名はよはれりうらつていふをいふをわらうん  
判とて望み

右首領お高次揚屋貞隆并軍一

二十一番

右

孝経心

右小高て承るを承れ森下守も年わらうとつてや二成りうら  
信定

右勝

信定

右お高て承るを承れ森下守も年わらうとつてや二成りうら  
信定  
右お高て承るを承れ森下守も年わらうとつてや二成りうら  
信定  
右お高て承るを承れ森下守も年わらうとつてや二成りうら  
信定  
葉の枝うらまはぬよとつていふをいふをわらうん  
判とて望み











二十六番

右

在家朝臣

心あつて平氣を祈り乃言及計を委座よるひきまて

右勝

宗蓮

持うしひきあ計ちもそるれ心よけけら平を乃上人

右方中云た弁被白らぬり思た方中云者弁

をれ上人と義よりなりす判云た弁上白備し

二多く初より人ゆり者より海よりゆりゆ

二十七番

右勝

兼宗朝臣

得り去れ中云弁とひりひきまてさ終よゆ海のもの

右

経家

得らまうけり夫とやいおんてまうくまふあつらわ

右方中云た弁と指難た方中云首尾を指く

判云者弁儲家言初より人ゆりかうとゆりや

丁為右勝次

二十八番

右勝

宗蓮

心あつて平氣を祈り乃言及計を委座よるひきまて

右

澄信朝臣



と移りこころをうらめしと持りわくし  
右方Pに云はれし母は難た方Pに云はれし  
心懸く判云者亦也字硯水よ今入本名と也  
ゆみくゆらん又いつた為揚

二十九番

右方

頭貼

わがころ并てひるまはのわらへる  
右 信定

持りよま九番にいらる者とも  
右方Pに云はれし母は難た方Pに云はれし

春は清くはるは潤也のりはよふらり  
右乃持りよま九番にいらる者とも  
あつらひてくもゆきえはらるるや

二十九番

右方

信定

百五にんしつを乃持りじつしよ  
右 家澄

持りよま九番にいらる者とも  
右方Pに云はれし母は難た方Pに云はれし



いづれ凍云毎年と事段ぬきしう様よりふと  
たれもやた方中と古新しき指難判云た後回  
くゆるふくし古又まゐりし物もあやうい角らあ  
るふくおく羽儀をたぬぬえくしと持るる人さ  
しや

一番

野世

たか

顯帖

つらほじめ紙へ書きぬらり乃新しきをたれい

古

霖蓮

あまふはむま日にあるあまふくハ家路とぬ指難を海ら

古方り云た方うら儀舟くハ女とくたし  
りされぬら紙ぬらりといつら流らぬらり陳と  
たつらりぬきしり二橋よ万葉集ふらん  
ありあさうのく又流は流百首の師阿つまたら  
しつらりなりた方り云古新し家路とぬ指  
難ハ世野らうらよあふくしとや古凍云の目つ  
る乃ゆとあがし聖とあふらりしや 判云  
石弁の海らたぬ新しきたらけり二橋よもや  
るすくし紙をいぬよとらくたつらりといひ  
たりと云流たうあふくしと万葉集よハとく



上志有翁号曰竹取い藤 壬子去月 登新  
望忽值黄表之九女子百媚之傍花容す心  
暗く之りいよとい海望遊乃亦小誠せり中  
緒さきよわく所くあつて但方葉集り二福院  
とあしし方人やまに後集ら原頌の初世の  
及彼君の付身や能よ頌の院お于今難鶴を  
たけい誰人之院下為折南の師時つ院心同  
あや通件能并九女子亦市中を竹葉の  
細汁也先頌の定て院をくりさる次をへゆ二  
信よし心糸のあけの善通く院也いぬくは

う陽香頌うもぬくしと訓せり米野首  
字もたつしと号しとゆり能うら海  
ゆくいあけいもる能行りてとひ新の風  
神しゆもいの上よ能もしとささる  
姿詞不可能幾次者あひ常れりるすし  
んくゆもてく竹も揚い難くし中割乃物ゆ  
ゆらん

一巻

左端

壬子去月

しんくゆもてく竹も揚い難くし中割乃物ゆ  
ゆらん







あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
まの目くらへはしんをく秀のこい  
かまのこいへはしんをく秀のこい  
あまのこいへはしんをく秀のこい  
くまのこいへはしんをく秀のこい

可書

右端

兼宗朝臣

あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく

右

兼宗朝臣

あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく

あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく  
あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく

可書

右端

兼宗朝臣

あつこくはなれりつらぬ原と標にひたれく







Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located at the top of the page.

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a date or a reference number.



